

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こども通所サービス にじいろプラス（児発）		
○保護者評価実施期間	2025 年 12 月 22 日		～ 2026 年 1 月 30 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 名	(回答者数) 10 名
○従業者評価実施期間	2026 年 1 月 6 日		～ 2026 年 2 月 10 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 人	(回答者数) 6 人
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 2 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に送迎をしていただくことにより、密に情報を共有することができる。	送迎時に、困りごとや聞きたいことを気軽に話せるように、職員から声をかけるようにしている。	定期的なモニタリングだけでなく、必要に応じて相談の機会を随時設けていく。 どの職員でも話が聞けるように、職員の、傾聴や会話のスキルアップに取り組んでいく。
2	運動プログラムは、専門資格を有する職員が担当しており、専門的な知識と技術に基づいた支援を提供している。	【運動：親子】 ・「触覚」「平衡感覚」「固有感覚」をバランスよく使うことができるように、遊びや道具を使いながら、親子で楽しく活動している。 【運動：幼児】 ・体幹を身につけるため、粗大運動で基礎的な身体の使い方を楽しみながら学べるように工夫している。 ・マット運動から鉄棒、跳び箱、なわとびへと段階的に発展するよう、系統立てた年間計画を作成している。単発の活動にならないよう関連性を持たせ、子どもが成功体験を重ねられる構成にしている。	活動内容について職員間での共有をさらに徹底し、全職員がねらいや支援の視点を理解した上で関われる体制を整えていく。 また、必要に応じて職員も活動に参加し、子どもと共に楽しみながら関わることで、より丁寧で一体感のある支援につなげていく。
3	法人内の認可外保育園の児童と定期的に交流する時間を設けている。	法人内の保育園との連携により、日常的な交流機会を確保している。 水遊びや英語講師によるレッスン等の活動に定期的に参加し、同年代の子どもと関わる経験を積んでいる。さらに、必要に応じて昼食を共にするなど、生活場面を通じた交流も大切にしている。	交流場面での様子を個別支援計画と関連付け、社会性やコミュニケーションの目標達成につなげる。
4	就園前・就学前など、ステージに合わせた保護者会を開催している。	就園前・就学前など、ステージに合わせた保護者会を開催し、先輩保護者の経験談などを聞ける機会を設けている。	就園・就学に必要な情報をさらに多く提供できるよう、情報収集に努める。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応についての周知が図れていない。	年4回の避難訓練を行ったり、非常時の対応マニュアルを、自由に見れるよう掲示しているが、周知しきれていない。	連絡帳での報告に加え、ホームページやInstagramに訓練の様子を掲載するなど、情報発信を強化し、周知の徹底を図る。